

## 花粉症の治療薬

- 日本医師会ホームページに掲載された花粉症の治療薬に関する文章です。
- 花粉症とは、スギやヒノキなどの植物の花粉が原因となって、くしゃみ・鼻みずなどのアレルギー症状を起こす病気です。季節性アレルギー性鼻炎とも呼ばれています。花粉のような異物（抗原）が体内に入ると抗体をつくって体を守ろうとしますが、人によっては抗原と抗体が過敏に反応しあってアレルギー反応が発生することがあります。抗原が花粉の場合、ヒスタミン、ロイコトリエンなどの化学伝達物質を放出して、鼻粘膜を刺激し、くしゃみや鼻水、鼻づまりといった症状を引き起こします。主なアレルゲンとして、スギ、ヒノキ、カモガヤ、オオアワガエリ、ブタクサ、シラカバなどがあげられます。

## 花粉症の治療薬

### ●治療方法

花粉症の症状を抑える<sup>(1)</sup>最も有効な<sup>(2)</sup>手段は、原因となっている抗原<sup>(3)</sup>を避けることです。しかし、残念ながら、自然の中で飛んでいる大量の花粉を完全に避けることは困難です。そこで、症状を抑える薬が使われます。

### ●抗アレルギー薬<sup>(4)</sup>

抗アレルギー薬には、ヒスタミンなどの物質の放出を抑える<sup>(1)</sup>だけの薬（酸性抗アレルギー薬）と、ヒスタミンの作用を抑制する作用も併せ持つ薬（塩基性抗アレルギー薬）とがあります。内服薬のほか、季節時に局所的に使う点鼻薬と点眼薬もあります。効果が現れるまで2週間ほどかかり、その後だんだん効果が高まります。

### ●抗ヒスタミン薬

抗ヒスタミン薬は、アレルギー症状を起こすヒスタミンの作用を抑制し、くしゃみや鼻水を抑えます。

### ●血管収縮薬<sup>(5)</sup>

血管収縮薬は、鼻粘膜<sup>(6)</sup>の血管を収縮させて粘膜の腫れをとることによって鼻づまりを抑えます。

### ●抗コリン薬

抗コリン薬は、鼻粘膜の分泌腺のアセチルコリン<sup>(7)</sup>の作用を抑制して、鼻水を抑えます。

### ●ステロイド薬

ステロイド薬は肥満細胞<sup>(8)</sup>の数を減らして、強力にアレルギー反応を抑えます。中等症以上の花粉症のひとに使われます。

## 【解説】

- (1) 症状を「抑える」場合は、"suppress" "reduce" "control" などを用います。後に出てくる物質の放出を「抑える」場合は、"inhibit" を用います。
- (2) 「有効な・効果的な」は "effective" です。「効率的な」を表す "efficient" と間違えないようにしましょう。
- (3) 体内に侵入すると特異的な免疫反応を起こす物質を「抗原」"antigen" と呼びます。抗原に対応して体内で産生され、抗原と特異的に結合する「抗体」"antibody" と間違えないようにしましょう。
- (4) いろいろな種類の「抗～薬」が出てきます。英語では "anti.....drug/agent" (例えば、抗喘息薬は antiasthmatic drug、抗癌薬は anticancer drug など) と呼ぶことが多いのですが、そうでない場合もありますので、辞書でよく調べましょう。
- (5) 「血管収縮薬」 = vasoconstrictor
- (6) 「鼻粘膜」は、"nasal mucosa" です。"nasal" は鼻を表す形容詞で、「鼻炎」は "nasal inflammation"、「鼻づまり」は "nasal congestion" といいます。ほかに体の部位を表す形容詞には、"oral" (口)、"gastric" (胃)、"hepatic" (肝臓)、"renal" (腎臓)、"cardiac" (心臓) などいろいろありますので、整理しておきましょう。
- (7) 「アセチルコリン」 = acetylcholine
- (8) 「肥満細胞」 = mast cell

